

【会議録】

15:00

○村上総務部長

定刻になりましたので、ただいまから令和7年度第1回美唄市総合教育会議を開会いたします。本日は、大変お忙しい中、ご出席いただきましてありがとうございます。本日の会議の進行を務めさせていただきます総務部長の村上でございます。よろしく願いいたします。開会に先立ちまして、桜井市長からご挨拶申し上げます。

○桜井市長

教育委員の皆様には、時節柄何かとご多忙のところ、本会議へのご出席ならびに、日頃より本市の子どもたちの教育の充実、発展のため、ご尽力を賜っておりますことに、心から感謝を申し上げます。また、美唄市としましては教育に関して、組織として市長部局と教育委員会の縦割り構造を打破して、子ども子育て、保育、高校の教育環境の充実など、一体的に子どもの成長過程を協議し、最善の環境を目指す施策、政策に落とし込んでいくことが最も重要なことであると考えており、今後は総合教育会議をはじめ、様々な機会をつくり、改めてこのメンバーでこのまちの子どもたちの教育環境について意見交換していきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。この総合教育会議で議論されますのは、教育大綱の新しく令和8年度からの部分に関して私が思っているところは、教育大綱にも盛り込んでいただきましたが、やはり子どもたちの生きる力を育てる教育部門をもっと充実していきたいと考えています。皆さん、マッキンゼーという会社をご存じでしょうか。アメリカのコンサルティング会社ですが、そのマッキンゼーが今回AIで仕事を年間150時間減らしました。そういうAIの時代がやってきました。その際に、人間に求められる必要な要素は3つですと言っています。一つは「志」、ビジョンを持って、しっかりそれを目指していくという

ころ、加えて「挑戦」、ビジョンと現実の乖離をしっかりと認識して、課題解決型で成功するまで何度も挑戦するというような挑戦する力、加えて「創造」、今申し上げたように、今までにないビジョンに到達するためのトライ&エラーを繰り返すことによって、「0」から「1」を生み出す力が人間に求められる力になっていくというような話がありました。美唄市における子どもたちにおいては、家庭環境やその発達のスピードによらず、それぞれに合わせた生きる力を身につけていく環境を整えていきたいというふうに考えておりますし、そのためには、市長部局と教育委員会で縦割りでやっけてはもちろんいけないですし、当然、家庭や地域、そういったところの境目というのが可能な限り曖昧な形で一緒に活動していく、協働していくということが必要になってくるのではないかというふうに思っておりますので、本日皆さんそれぞれの立場から、現場を見ながら、なおかつ、美唄市のビジョンそれぞれ皆さんお持ちだと思っておりますので、そういった観点から、この教育大綱というものが使いやすいものになっているのか、というようなところをご意見いただいたり、点検していただいたりというふうな場にしていただければと考えておりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

○村上総務部長

それでは早速会議に入りますが、美唄市総合教育会議設置要綱第4条の規定により、市長が議長になりますことから、会議の進行をお願いしたいと思います。市長、よろしくお願ひいたします。

○桜井市長

それでは要綱に基づきまして議長を務めさせていただきます。どうぞよろしくお願ひいたします。協議事項は、教育大綱についてとその他の2点になっております。挨拶でも申し上げましたが、それぞれの立場から、教育大綱を見渡していただいて、様々ご意見をいただければというふうに思っております。どうぞよろしくお願ひいたします。まずは次期

教育大綱について、教育委員会から説明をお願いします。

○西田学務課長

教育委員会の西田でございます。私の方から次期美唄市教育大綱について説明させていただきます。教育大綱は法律に基づき、「市長は国の計画を参酌し、本市の実情に応じ、教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱を定めるもの」とし、これを変更しようとするときは、あらかじめ、総合教育会議において協議をするものと規定されているところです。このことを踏まえ、現在の教育大綱が令和7年度末をもちまして期間満了となりますことから、令和8年度以降の次期教育大綱の素案をまとめましたので、総合教育会議において、協議いただきたいと考えております。それでは資料の美唄市教育大綱、横書きの新旧対照表をご覧くださいと思います。次期教育大綱につきましては、これまでの基本的な考え方を引き継ぎながら、現在の社会情勢や本市の現状に合わせて必要な箇所の見直しや、文言の修正を行い、変更したところをアンダーラインで示しております。初めに2ページをご覧ください。1 大綱策定にあたってですが、ここでは大綱策定の背景と目的等を記載しております。冒頭では、子どもたちは美唄市の希望であり、かけがえない宝で、一人ひとりの笑顔と活力がまちに息吹を与え、持続可能な未来への確かな可能性を生み出すとともに、全ての子どもたちが、生まれ育った環境に関わらず、夢や希望に向かって成長できることを願っているとしております。その次では、近年、少子高齢化やデジタル・トランスフォーメーションの進展といった急激な社会変化の中、教育は大きな転換期を迎えており、時代を生き抜く力を育むための教育改革が不可欠となっているとしております。こうした背景がある中、市長部局と教育委員会が総合教育会議を通じて、本市独自の施策を総合的かつ一体的に推進していくことが求められ、第7期美唄市総合計画後期基本計画等を踏まえ、新たな教育大綱を策定し、全ての市民が生涯にわたり学び続け、その学びを通じて人と地域が繋がり、ともに育ち続ける社会の実現

とともに、学校・家庭・地域が協働し子どもたちの学びに向かう姿勢が育まれる環境づくりを市長部局と教育委員会が一体となって推進していくとしております。つぎに2大綱の位置付けです。ここについては変更はありませんが、冒頭でご説明したとおり、教育大綱は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律に基づき、本市の教育、学術、文化及びスポーツ振興に関する施策の総合的な推進を図るため、総合教育会議において協議・調整し、市長が策定することを記載しております。つぎに3関連計画との整合性です。この大綱は、現在策定作業中の本市の最上位計画である第7期美唄市総合計画後期基本計画をはじめ、第3期美唄市子ども・子育て支援事業計画「新びばいっこすくすくプラン」や、第3次美唄市生涯学習推進計画後期基本計画などの関連計画との整合性を保ちつつ、社会情勢の大きな変化があった場合は、必要に応じた改定を行うなど、柔軟かつ適正に対応することとしております。つぎに4大綱の期間です。大綱の期間は令和8年度から令和12年度までの5年間としております。つぎに、5番目、大綱の基本理念でございますが、記載のとおり、「自ら未来を切り拓き、地域の未来を担う、一人ひとりの“生きる力”を育む教育の推進」としてしております。つぎに6大綱の基本目標でございますが、6つの基本目標を設定しております。この6つの基本目標は、現在の教育大綱の基本目標を継承しておりますが、それぞれ文言及び取り組むべき方向について、現状に沿った形で変更しております。初めに、基本目標1「社会から求められる力の育成」では、取り組むべき方向の②、情報教育の充実を、教育DXの推進に変更しております。基本目標2「豊かな人間性と健やかな体の育成」では、食農教育のあとに「農業科」を追加いたしました。基本目標3「地域との連携・協働等の推進」では、取り組むべき方向の③学びのセーフティーネットの構築の部分を個別最適な学びの推進に変更しております。基本目標4「学びをつなぐ学校づくりの促進」では、生涯学習センターの部分と、小中一貫校等の取組を検討に変更しております。基本目標5「スポーツを通じた地域づくりの推進」では、スポーツ大会開催や合宿の受け入れ

をスポーツ大会の誘致や包括連携協定したプロスポーツチームに変更しております。基本目標6「地域に根ざし、暮らしに学ぶ生涯学習活動の推進」では、取り組むべき方向の①地域学、美唄学を取り入れた生涯学習の推進を、地域資源や人材を活用した生涯学習の推進に変更してございます。以上が変更点となります。私から説明は以上となります。よろしくお願いいたします。

○桜井市長

ただいま変更点を中心に、教育委員会から説明させていただきましたけれども、冒頭から基本目標6までそれぞれご覧になっていただいた中で、変更点に関わらず、こうした方がいいのではないかというようなご意見を、ぜひ賜ればと思っておりますが、いかがでしょうか。

○石塚教育長

記載はこのままだでもいいのかなと思うのですが、4ページの取り組むべき方向で教育DXの推進とありますよね。これは、教育DXのそのものが目的じゃなくて、そのDXを推進することで、各学校の教育の質ってというか、教育活動の質を高めるためっていうことがあるっていうことを念頭に置いた記述だというふうに、考えた方がいいのかなと考えています。ペーパー仕事よりも、教材研究をしっかりとやいなさいよということですね。

○藤島委員

6ページの基本目標4生涯学習センターを併設したというところがなくなったわけですが、これは併設だからなくなったという捉え方でよろしいのか、それとも生涯学習センターというものの自体が今の時代に予測していないんじゃないかということでしょうか。もう一点が、取組から検討に表記が変更になったかと思うんですが、どちらの方がレベルとしてはあがったのか。

○杉本教育部長

生涯学習センターの理由ということですが、近年、小学校につきましては、大きな大規模改修を行ったところです。そして中学校も含めて冷房施設の整備も進んでいます。そういった中で、生涯学習センターの併設という部分は前期の総合計画前期基本計画の中でも謳っていたのですが、そういったいろいろなハード整備の環境を先に進めたことによりまして、生涯学習センターを併設したという部分を、イメージとしては4校1つと、そして生涯学習センター的な社会教育的な施設を、複合化してそういった部分を整備できたらという部分で、5年前に前期基本計画に謳っていたのですが、いろいろと取組を検討し、環境を整備している中で、東側に2校小中、西側に小中2校ある中で、今すぐ次の5年間の中で、なかなか4つの学校を1つにしてという部分を、今進める状況ではないかなと考えているところでございます。この義務教育学校の取組を今現在進めるというのはしないわけではなくて、今後その5年間の中では、義務教育学校の取組を、今すぐ建てるとか実施設計をすとかという部分ではなくて、今管内いろいろなところで義務教育学校を取り組んでいますけれども、その中でいろいろなデメリット、メリットが出てきているかと思っておりますので、そういった状況をしっかりとつかみつつ、もし統合できるものであれば、その中で考えていきたいという部分でありまして、決して後ろ向きというわけではなくて、取組と書いていたのですが、生涯学習センター自体をちょっと切り離した中で検討していきたいと今考えているところです。生涯学習センターという部分でイメージすると、市民会館等をやはりイメージしてしまうのですが、今、市民会館はかなり老朽化で傷んでいるものですから、そういった部分の建替えを進めていかなければならないと思いますので、一旦切り離して考えていきたいと考えています。

○桜井市長

今の議論のきっかけだったんですけれど、中高一貫校とか小中一貫校とか、義務教育学校が最近非常に多く建設されていて、子どもたちの部活、小学校においては少年団活動だったり、あとは先生たちを集めるに当たって、砂川などはすべての小学校、中学校を1か所に集めるという決断をしたわけですが、私のイメージとしては、それはどちらかというと大人から見た問題解決の一手だなと思っていて、子どもは例えば、学校の状況だったりクラスの状況だったりというような、なければもうひとつ選択肢として学校としてあるよとか、先程来、出てきている個別最適な学びを得るというふうになっていった場合に、当然少人数の方が様々なことに対応していけると考えると、1つにまとまって、1クラス40人よりは20人・20人みたいな学校がある方が、より充実した環境が得られるんじゃないか、昔の西美唄小学校とか、私の世代でも20人切っていました、その人数だからこそできる、できた、探究学習みたいなものも結構ありましたから、そういう個別最適を目指すのであれば、必ずしも学校として集まるっていうのは、得策ではないケースも多いのかなと思っているので、ぜひこの5年間そういった議論をしっかりとしながら、一旦大規模改修は行っているんで、時間的な余裕はあります。建物が差し迫って耐震化しなければいけないとかそういうことはないんで、子どもたちが今から急激に減ってきますから、来年の小学校1年生が60人ぐらい入ってきますので、その状況を見ながら、ぜひ小学校、中学校をどう見ていくかというようなところも議論していけたらいいのかなと思います。またこの間、教育大の岩見沢のキャンパス長の山本先生とお話できたのですが、これから限りなく学校と地域の境目っていうのを薄くしていく必要性に迫られると。要するに先ほど挨拶で述べさせていただきましたが、先生方がクラス運営をして子どもたちに教育を与えるというやり方は、限りなく先生の担い手不足というものもあるのでしょうかけれども、子どもたちにそれぞれに寄り添って教育を提供するという点に関して、有利なやり方ではなくなっていくのではないかと、というような話もありますし、今、東小などは、せわすきせわやき隊の

方たちが入ってくださっていたりですとか、子どもたちに寄ってたかって地域だったり様々な大人が入っていくというふうなことを考えると、先ほど出てきた生涯学習センターみたいなものが、これから使わない教室がでてきますから、教室が学校の中にあるとか、図書館が地域の図書館と学校の図書館が併存しているとか、様々な地域と学校の境目っていうものを薄くしていくことによって子どもたちの支える手だったり、見守る目が増えてくる、こういうようなところもひとつあるのではないかとおっしゃっていて、私も強く共感するところでした。当然皆さんそれぞれ関わっている子どもですとか、それによって、お考えについてそれぞれあって然るべきだと思いますので、まさにそういった意見のやり取りをさせていただいたらいいのかなと思っています。

○石塚教育長

今、市長がおっしゃるとおりなんですよね。タイミングがすごく大事ななんだけれども、ある程度人数がまだいる間に急いで1つにしてしまうと、1人当たりの指導ができる教員の数がすごく減ってしまうということで、そうなるとその一人ひとりの教員の質が問われるべきで、ある程度人数の少ない中で、少ない人数を先生が指導するというのはもう明らかに有利になりますから、そこはきちんと見極めながら、ただ、やはり将来に向けての検討はきちんと行っていく必要があるのかなということですね。

○桜井市長

人数が集まるというメリットがありますからね。

○石塚教育長

本当に極端に少なくなると、その学校の方から、ぜひ一緒にしてほしいとお願いに来るんですよね。そうなると何の障害もなく、スムーズに統合した記憶があります。

○桜井市長

高校へ行って、いきなり 40 人クラスへ入って慌てるような子も私の学校からいなかったわけではない、私も一人で行きました。17 人のクラスからいきなり 40 人のクラスになりましたけれども、良し悪しというところかなと思いますので、ぜひ皆さん、ご意見、この基本目標を精査していくところで議論いただけるのではないかと考えています。記載に関してはそういったところを反映して、この 5 年間の動きというのをチェックしてみるということです。小中一貫校又は義務教育学校を検討すると書いてあるので、何かありきみたいなふうにとられないような記載もあってもいいかもしれない。「等」とか。文章を変えずに可能性をつくるとしたら「等」のような、様々な学校のあり方のうち、例示しているだけだよと。

○石塚教育長

義務教育学校と一貫校というのは、それぞれ長短があって、何かこう一般の方たちは義務の方がいいんじゃないかという感じなんだけれど、よくよく調べてみたらそれぞれで、そこはよく検討した方がいいのかなと。

○土肥委員

多分その義務教育とか一貫校は、結構もう歴史があるのかもしれないけれど義務に関してはまだ普通に浅いですし、だから、よかれと思ってやったことが、逆にこんなはずではなかったというような結果が出ている話もよく聞くので、だから美唄市としては、慌てず、かつ、あまりのんびりしないように、乗り遅れないようにということもあるのだけれども、周りをよく見ながら、良いところを汲み取って、この大綱には義務教育学校という言葉が載っていても、私はかまわないのではないのかなと思います。

○要覚委員

検討を進めてまいりますというふうな表現があると、そちらにいきたいのかなと思ってしまいかねないので、何かもうちょっと違う書き方をしたほうがわかりやすいのではないかと思います。

○桜井市長

教育を含めた学校の在り方、教育環境の在り方みたいな。

○石塚教育長

現実でもし新しくなれば2、3年は持つんですよ。よっぽどひどくない限りは。地域が。だけれど、問題はその後なんですよ。

○桜井市長

では、検討事項としてください。ほか、いかがでしょうか。

○要覚委員

大綱に入れてほしいとかそういうのではない、要望なんですけれど、基本理念の“生きる力”というのはとても大事で、生きるというのは食べる、食べていくということだと思っんです。ですから食べるということ子どもたちが真剣に考えてもらえるような何かがあればなというのはいつも思っていました。給食の残飯の中で、やはり野菜とか好き嫌いとかいう問題があって、食農教育で農業科となると、どうしても作る方、稲を育てるとか大豆を育てるとか、何かそちら視点になってしまうのですけれど、そこの中にも、もっと食べるということに関しても、何かがあればいいなと思います。先ほど市長がおっしゃったように、地域の子どもたちの役にたちたいと思っている方がたくさんいらっしゃるの、そういう方たちに食農、食べるということの大切さを、今本当に核家族で、おじいちゃんおばあちゃんがない子が多いので、そこから食べるということの学習ではないのですけれども、そういう大事なことと

いうのは伝えてほしいなという、そういう場を作っていただきたいというのがあります。毎回というわけではないのですけれども、そして子ども食堂となると、ちょっと大き過ぎてなかなか大変だと思うので、触れ合う場所とか、一緒に物を食べる時とか、そういうものがひと月に1回でもあれば、何か少し違うのではないかなと思って、これは要望です。

○石塚教育長

それに合わせてというわけではないのですけれども、もともと給食というのは戦前、戦後もそうなんだけれど、食材がなくてお弁当を持たせたくても持たせられない時期があって、給食ができたということで、質のいい給食というのはいいことなんだけれども、逆に家庭の教育力を奪っているということもあるかなということなので、先週の校長会議で投げかけたんだけれど、自分が現職校長のときに、給食のない日には、自分で買い物からメニューから全部自分で作ってきなさいと、できる子からやってみなさいねと、テストとかそういうことはなくて、自分が現職のときにやってとても好評だったんですね。石狩でもやっているらしいので、美唄でもやってみたいなと、先週校長会議で投げかけて、できるところからということで、受け身でただ大切な勉強をするのではなくて、自分たちでメニューも考えて、自分の分だけではなくて家族の分もお弁当を作るとか、そういうもっと能動的な動きもできたらいいなと思います。

○要覚委員

それはすごく私も賛成で、朝ご飯を食べない子が増えているというのは、親が用意しないからだというのではなくて、自分で作れるような子どもになってほしいなというのはすごく感じます。

○石塚教育長

できることは自分でさせるということが大事だと思うんですよ。何でも親切にやってあげるということは必ずしも良くないと思うんですよ。

○桜井市長

農業科にも、確実に調理して自分が育つために食べるみたいなことによる、よく中村桂子さんが言っている、生き物をいただくみたいなところも多分にあると思うので、農業科においてもその部分を、もっとわかりやすくするというか様々なご協力をいただきながら、学校内での調理実習で終わるのではなくて、地域とつながってやるというようなところに発展させていけば、そういった要素というのは大きくなるということはあるかもしれないですね。

○藤島委員

昨今、美唄市に関わらず、全国でいじめの問題が多くなっており、同時に教職員の問題も多くなってきているのかなと思っています。美唄市の取組は適切だと思っているのですけれども、大阪府の寝屋川モデルというものがあまして、教育委員会とは別の組織で、学校の問題を受ける市長直轄の部局があります。全国から注目されている取組で教育的アプローチ、行政的アプローチ、法的アプローチの3段階のアプローチで問題を解決していくという方法になっております。こういう部署があることによって、学校や教育委員会の負担軽減や、いじめの抑止力として期待できるのかと思います。いじめは生きる力の大きな阻害要因になるインパクトがあって、将来の発達にも大きく影響すると思いますので、いじめの問題を全面的に積極的に解決していくという姿勢があっても良いのではないかと思います。

○桜井市長

どこに反映できますかね。

○藤島委員

基本目標 2 の②

○桜井市長

倫理観や規範意識、他者と協働する心みたいなところ、②に一応入れてほしいというのがあって、その辺りをより具体化していく。

○石塚教育長

生徒指導提要というのがある、すごく経験に基づいた提要なんですよ。大事なのは、いじめの防止というよりも、普段の授業だとか、行事の質をきちんと高めることが一番の方針なんです。だから、載せてるのは全然いいことなんだけれども、後手に回るとそういう仕組みもだんだん大事になってくる、まずは、そういうことが起こらない学校経営、学級経営なり、授業づくりなり、それがまず根本なんだと思います。8割ぐらいそれで決まる。起きてしまったら藤島委員のおっしゃるとおり、受け手の方の仕組みも整えることも大事なのかなと、そんな感じで考えていますけれども、特に美唄の場合は弁護士がいるということと、相談できるということがすごく大きい。助かっています。道教委の弁護士もいますし、市の弁護士もいます。

○桜井市長

起きたことの次の対処というところで、しっかりと、当然起きないのが一番優先なので、それに向けたクラスというのを目指していくというのは当然のこととしてありながら、起きてしまってもこういう対応をきちんとするよというようなことが藤島委員がおっしゃった抑止力だったりとか、あとは親の安心みたいなところにつながる要素というのはあるのかもしれないですね。一方で、それによって家庭や子どもと学校の距離が離れないようにというのもまた一方で必要かもしれないですけど。第三者が入ることによって、常にキャッチボールが直接ではなく何かを経由してというようになっていけないう。他市の取組とか大綱

への盛り込み方など情報を集めておいていただければと思います。

○梅田委員

要望になると思うのですけれど、基本目標の1社会から求められる力の育成というところにかかってくるのかなと思うのですけれど、社会から求められる力という部分で、社会を生き抜いていくには学力だけではなくて、コミュニケーション能力であったり、勉強以外の面の人間性も必要になってくるのかなと思うんですよね。それに反面してくるとは思うのですけれど、子どもたち、特に小学生とか小さい子たちに、将来の夢を見つけられるような授業や体験などを、学校単位や市単位で行っていったらいいのではないかなと思うんですよね。やはり家庭環境や経済力にもよると思うのですけれど、各家庭で経験や体験を求めるのは結構差がついてきてしまう地域性もあるんです。美唄は特に。ですのでそこを学校や市で行うことによってその格差ではないのですけれど、差をなく、みんなが体験できるようになるかなと思うんですよね。今の子どもたちは特にネットに触れているので知識はとともあるんです。でもそれを特に美唄で経験したり体験したりというのは結構難しい部分があると思うので、それを美唄でやることによって、美唄に住んでいてもネットで見たこういうことができるんだとか、美唄からでもこういう活動ができるんだというふうに思ってもらって、自分もそうなりたいとか、こういうことをしてみたいというふうにつながっていくと、自分も社会に役立つ人間になりたいというふうにつながっていくと、そのためには勉強をしないとこの学校には行けないとかというふうにつながっていくと思うんです。そういう体験なども、どんどん今以上に増やしてほしいなと思います。

○桜井市長

多くのロールモデルと出会う経験をするという感じですかね。

○梅田委員

視野が広げられるような教育って嬉しいのかなと。

○土肥委員

今、梅田さんが言ったことは本当にそうだと思うし、盛り込めるのかどうか分からないですけど、美唄市として各家庭とどういうふうに教育に結びつけて支えていくかというところは、どこかに家庭という言葉が入ってもいいのかなと思うんですよね。最近はやはり家庭教育ということが結構、置き去りにされてしまって、差があまりにも開きすぎているというか、何か美唄市としてそこを手助けすることができないのかなと思うんです。本当に難しいと思うんです。

○石塚教育長

教育に関して家庭の中に入り込めるのはソーシャルワーカーぐらいなんです。毎月報告書があがってくるんだけど、読み切れないぐらいあって。

○土肥委員

家庭という言葉を入れられなくても…

○石塚教育長

入れていなくても、集落支援員の方たちは予算がついているから、もう少し積極的に入ってくれたらいいかと、それから学校というか教育委員会との連携が取ればいいかと。すごくいいことをやっているのは社会福祉ですか、ブックスタートをやっているんですね。ブックスタートをもっと充実させて、読み聞かせを経験した子どもと、全くなくてスマホだけ預けられて育った子どもとでは、天と地の差が出るんです、本当に。だから、ブックスタートをもっともっと大事に、デジタルでもそれは直接教育委員会ではないのですけれど。それから5歳児健診ですか、

今年から始まる、昔からやっていた「てらん」、もう何回も何回も全体の会議では福祉と連携してやりましょうというふうに言っていましたけれど、3歳児から5歳児、そして小学校、中学校、高校とこういったものをきちんとサポートしていくというのが、美唄の良い方法になるのかなと考えています。

○桜井市長

実際問題ですね、この話の前段で出てきた「新びばいっこすくすくプラン」で昨年作った、子ども・子育て支援事業計画に関しては、この年から、初めて親にフォーカスを当てたんですね、今までは子どもにどうアプローチするののかという基本方針しかなくて、親の存在というのはその子どもの向こう側にいる人たちというような計画だったのですけれど、現在においては当然共働きが増えてきていて、子どもと過ごす時間というのが取れなくて、小さい子どもを抱えていて格差が広がっているというような状況において、親の精神的な、時間的なだったり、負担というものをできるだけ軽減したり、そこに寄り添ったりというような施策が、子ども・子育てにおいては必要だろうということで、基本方針を新たに組みなおしたりしたんですよね。当然、それが就学前だけということではないので、小中学校義務教育の部分に言及していく教育大綱においても言及されるということは非常に有意義なことなのではないかなと思っております。であるとしたなら、基本目標3のところ、最初の冒頭のところに入っていくと、地域との連携・協働等の推進の家庭・学校・地域がそれぞれ役割と責任を担い、それぞれやることが決まっているような印象で書かれているところを行政というものも入れながら、少しそれぞれの役割というものが重なるような、印象を与えるような書き方にするのですとか、あとはその中段になっていくと、地域全体で学校現場や教職員を支えていくような記載になっているのですけれど、これだと学校の先生にお任せのような印象も与えかねないなと思っていて、最終的に孤立化させてはいけないというようなところは、当然教育の現場

もそうなんですけれど、やはり、土肥さんがおっしゃっていた、家庭も孤立させてもいけない、孤立した家庭の中で育つと家庭の状況に応じてしかチャンスや経験を得られないというようなことがより深まっていくと思いますので、少しこの辺りを直してもいいのかなというふうに前段のところで完結させていただいたかと思うのですが。

○土肥委員

ちょっと余談になるのですが、娘がお産で砂川市立に入院している時に、隣のベッドでお産された方が、今はみんな個室みたいなところでカーテンをしているので、全く、どんな顔をしていて、幾つの方なのかというのはわからないようなんですけれど、看護師さんに、母乳の出なくなる薬を下さいと申告する方がいると言うので、それくらい社会は変化していつているわけです。だから家庭のありようというものが、かなり変わってきているみたいだなと思うんですよね。なぜ母乳の出なくなる薬がほしいかといったら、別に理由がなくて、私のおっぱいからお乳が出るってことが許せないんですということ、看護師さんに説明してるんですよね。だから、もちろんそういう方が子どもを育てると、そういうふうな子どもが育つわけで、だから、いやそうじゃなくて母乳で育てることが大事なんだよということも理解させるような、そういう教育は周りから伝えないとわからないで育つわけですよ。だから、もう何か行政がそこまで踏み込んで、子どもというかこれから支えていかなきゃならないような、もしかして時代に入ってきているのかなと、思っています。これがすべて良いっていうわけではないのですが、お仕事していたり、ミルクで育てるということはわかるけれども。

○石塚教育長

北海道は特に核家族というんですか。福井県などでは2人稼ぎで、一緒に住んでいるから経済的にも恵まれていて、それで学力も上がっている。だから、親とか、曾祖母とか普段育児を助けてもらえるところは全

然有利なんだけれど、知的にもちょっとあやしい、いろいろな申請も難しい、そのところに子どもができたりますます深みにはまっていくようなそういう家庭も多いのかなと。

○桜井市長

そうなってくると、孤立しますしね。かつては学校教育現場における締め付けみたいなものが増えていって、先生が孤立していくという状況が色濃かったのではないかと思うのですけれど、それにあとを追いかけるようにして、親が置かれている状況というものもどんどんハードな状況になっていたり、子育てしていくに当たって情報や学びが少ない状況で子育てに入っていくというような環境も、どんどん増えているということから、やはり家庭についても孤立しない、させない、支える、当事者である一方で支えられる場面というものも必要だということがあったのかなというふうなことをいただいたような気がします。3のところの記載を学校現場や教職員というような形で記載がありますけれど、この辺りの記載、前段、この段落からの冒頭からの流れの中で家庭・学校・地域で学校現場を支えていくというよりは、現状においていくと、地域や行政一体となって、学校や家庭が孤立していかないように連携を深めていく、協働していくというような記載になると、今、議論で出たようなところが反映されるかなと思いますが、検討していただくと。

○桜井市長

どうでしょうか、大体出尽くしましたか。ありがとうございます。

○桜井市長

では、幾つか大きなご意見をいただきましたので、教育委員会の方で可能な限り反映できるようにしながら、今後の手続を進めていただければと思います。ありがとうございます。最後その他なんですけれど

も、何か教育委員会、総務部、用意しているものはありませんか。ないですか。委員の皆さんから、その他ありませんか。ありがとうございました。では協議事項については以上で終わらせていただきたいと思います。では事務局にお返しします。

○平野総務課長

私の方から、事務局からですが、ご説明申し上げたいと思います。教育大綱の改正スケジュールにつきましては、現在作成中の美唄市総合計画、この計画との整合性を図るため、本日ご意見いただきました、協議内容を踏まえて、総合計画の策定後に、次回の総合教育会議の中で確定したいというふうに思っております。また本日、大綱の案について意見交換をさせていただきましたけれども、本日ですね、お持ち帰りいただいた後に再度お目通しいただきまして、何かお気づきの点がありましたら、事務局の方にご連絡をいただきますようお願いいたします。なお、次回の総合教育会議の開催の予定についてですが、3月下旬頃に開催したいと考えております。総合計画の確定が3月ということで、それを待って、会議を開催したいと思っております。その際には、改めてご案内をさせていただきますので、どうぞよろしくようお願いいたします。以上でございます。

○桜井市長

開催時期につきましては、また改めて出させていただくということで、どうぞよろしくようお願いいたします。それでは以上をもちまして、第1回の総合教育会議を終了させていただきます。皆様お疲れ様でした。

15:56 会議終了